

グリスロに熱視線

初の「グリスロ本」発刊

「ワクワクする乗り物」

著者・三重野さん(東大特任准教授)に聞く

グリーンスロモビリティ

イ(グリスロ)の名付け親で、日本初のグリスロ専門書を5月20日に発刊した東京大学公共政策大学院交通・観光政策研究ユニット特任准教授の三重野真代さん(国土交通省から出向中、元総合政策局環境政策課長補佐)に2日、出版の狙いやグリスロにかける思いを聞いた。三重野さんは「みなワクワクする乗り物」

などと魅力を語りながら、普及への課題の一つとして収益化を挙げた。「生活交通としてのグリスロは、企業広告、寄付、補助金というさまざまな形で継続につながる。観光用では、ガイドなど付加価値で値付けを」と指摘した。

出版の経緯や本の特徴を伺いたい。

「各地の皆さんがグリスロの中

り、インタビューしたりした。地域交通はいろいろな立場の人が関わって成り立つ。どの読者にとっても共感できる部分が見つかると思います」

「新型コロナウイルスの影響で、グリスロを導入したい自治体や事業者が現地を視察するのが難しくなっている。そうした人たちがこの本で理解を補い、意識を醸成するなどして役立ててほしい」



グリスロの魅力を伝える名手。三重野真代さんのインタビューをまとめた『グリーンスロモビリティ』の表紙。

「グリスロに携わっていると、みんながワクワクする。生活の足を提供でき、今までにないような観光やまちづくりができる。新しい視点でいい世の中をつくらせている。心に残っているのは、岡山県備前市で、地域で暮らすお母さんたちが、『初めて地区の人たちとお出かけし、面白い物としてご飯を食べられた。実験だ

と地帯を変える。各地の事例から導入・運営のための知識まで、グリスロが持つ力と可能性を伝える1冊。数多くの写真と奮闘記、首長インタビュー、Q&Aなどが取り上げられている。東京大学公共政策大学院の三重野真代特任准教授と交通工

「グリスロの登場でドライバーになりたい人が増えると思う。広島のアサヒタックから移ってきた人がいる。障害者手帳を持っている方や高齢の元プロドライバーが運転しているところ



タイトルは「グリーンスロモビリティ」小さな低速電動車が公共交通の知識まで、グリスロが持つ力と可能性を伝える1冊。数多くの写真と奮闘記、首長インタビュー、Q&Aなどが取り上げられている。東京大学公共政策大学院の三重野真代特任准教授と交通工

「グリスロの登場でドライバーになりたい人が増えると思う。広島のアサヒタックから移ってきた人がいる。障害者手帳を持っている方や高齢の元プロドライバーが運転しているところ

「グリスロの登場でドライバーになりたい人が増えると思う。広島のアサヒタックから移ってきた人がいる。障害者手帳を持っている方や高齢の元プロドライバーが運転しているところ

「グリスロの登場でドライバーになりたい人が増えると思う。広島のアサヒタックから移ってきた人がいる。障害者手帳を持っている方や高齢の元プロドライバーが運転しているところ

「グリスロの登場でドライバーになりたい人が増えると思う。広島のアサヒタックから移ってきた人がいる。障害者手帳を持っている方や高齢の元プロドライバーが運転しているところ

「グリスロの登場でドライバーになりたい人が増えると思う。広島のアサヒタックから移ってきた人がいる。障害者手帳を持っている方や高齢の元プロドライバーが運転しているところ

「グリスロの登場でドライバーになりたい人が増えると思う。広島のアサヒタックから移ってきた人がいる。障害者手帳を持っている方や高齢の元プロドライバーが運転しているところ

東大に出向中の三重野さん。本郷キャンパスの構内で笑顔でポーズ(2日、東京・文京区)

「逃げ恥(逃げるは恥だが役に立つ)』がやはり、日本人には4文字略語がいいと言われ出していた。『GSM』と略す人もいたが、『アルファベットではなく、4文字にして。グリスロ』と言いつつ続けた。高年齢者にも使いやすい言葉。メディアにも最近だんだん、グリスロと書いてもらえるようになった」

「環境に優しい電気自動車は、バス、タクシーでそれほど普及していない。公共交通を利用すること自体がグリーンだが、グリスロによって車両そのものが電動に変わっていく」

「運行を継続する上で、見えてきた課題は。――乗車定員が少なく、ゆとり走るので本数を増やせず、収益化は従来のバス・タクシーより難しいかもしれない。生活交通として走らせる場合、企業広告や寄付、補助金といういろいろな形でやらないといけない。ただ、観光用に使われる場合は別で、ガイド付きで1時間回るといった付加価値があれば、1000円、2000円の値付けは可能。人力車はもっと高い」

「コロナの終息後はたくさんの方に、オンラインばかりの日々から離れて、風

「グリスロを通じた出会いの中で、印象深かった人を挙げてほしい。――魅力的な方はたくさんいるが、アサヒタックの山田康文社長は『補助金はない。山田社長は実証から4カ月で、グリスロで初めて緑(事業用)ナンバーを取得した。バス・タクシー事業者が担ってくればと考える自治体は多いと思う」

略歴 (みえの・まよ) 2003年国土交通省に入り、京都市産業観光局MIC E戦略推進担当部長、総合政策局環境政策課長補佐、復興庁企画官(観光担当)など歴任。4月から現職。京都大学経済学部卒。大分県出身、41歳。

